

第7日

令和7年12月10日（水）

午前11時15分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番半田雄三議員の質問を許可します。10番半田雄三議員。

（10番半田雄三君登壇）

○10番（半田雄三君） 皆さん、おはようございます。議長の許可を得ました10番議員の半田雄三でございます。

本日、一般質問するに当たり、先日開催されましたeスポーツについてこの場で少し述べさせていただきます。

私、小学校時代より競技スポーツをずっとやってきておりまして、eスポーツという言葉に非常に違和感を持っておりました。ところが、先日の朝倉市甘木中央公園の点灯式並びに、それに同日に行われたeスポーツの大会が本当に賑やかに盛大に行われていたことにつきましては、私、少し認識を変えなきゃいかんかなという意識を持っているところで

す。

本日、一般質問につきましては、人口動態を中心に、それから関連する事業を一般質問させていただこうと思っておりますが、根底にありますのが、日本の国が今人口が減少してきているという中で、その中でも、幾らかの都市は人口増であるという事実もあります。その1番人口が増えている都市がたしか大阪市、そして2番目に増えている都市が福岡市のはずなんです。その周辺都市である朝倉市という状況にあるわけですけれども、その1番増えているところ、2番増えているところにつきましても、人口は増えているけれども、自然減であると、出生と亡くなる方の数でいくと減ってきているというのを根底に置きながら、朝倉市は政策を展開していく必要があるのではないかとこのところで、今回の一般質問をさせていただきたいというふうに思います。

以後、質問席より質問を続行いたしますので、執行部におかれましては明快な回答をよろしくお願いいたします。

（10番半田雄三君降壇）

○議長（小島清人君） 10番半田雄三議員。

○10番（半田雄三君） 今申し上げましたとおり、朝倉市人口動態について質問させていただきます。

昨日、鹿毛議員のほうからも質問がありましたが、幾らかかぶるところはあるかもしれませんが、質問を続けさせていただきます。

朝倉市は、2014年に日本創生会議が発表した消滅可能性リストで、消滅可能性自治体に位置づけられました。全国では983自治体が消滅可能性都市に位置づけられたと思っております。その後、市独自で減るスピードを減らす、もしくは横ばいに持っていくためのい

ろんな政策をされました結果、10年後の昨年2024年に、人口戦略会議が発表したレポートでは、当初983あった自治体が744自治体に減ってきております。239自治体が脱却したということになっておりますが、その中の一つに朝倉市が入ってまいりました。いろんな政策をやった結果であるとは思いますが、この消滅可能性都市リストから脱却できた理由をどのように考えておられますでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 議員が言われますとおり、朝倉市は平成26年に消滅可能性自治体というふうに位置づけられておりましたけども、昨年の分析レポートでは、消滅可能性自治体から脱却した自治体というふうに発表されております。このことにつきましては、消滅可能性自治体に位置づけられた後に、まち・ひと・しごと創生法に基づきます総合戦略というのを策定しまして、子ども・子育て支援、それから移住・定住促進に向けた取組など、人口減少対策として様々な施策に取り組んできたところでございます。具体的には、移住・定住支援といたしまして、朝倉市お試し居住や朝倉市移住定住支援金、朝倉市住宅補助金でありますとか、子ども・子育て支援としましては、結婚新生活支援補助金、妊婦健診助成、子ども医療費助成などがございます。

また、仕事の支援としまして、朝倉市創業支援補助金、朝倉市新規就農営農支援などの事業を実施してまいったところでございます。これらの様々な事業を実施してきた複合的な効果によりまして、脱却したものというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 私もそのように、いろんな施策が効果を表してきている結果だろうと思っておりますけれども、今年ちょうど国勢調査の年でありました。10月1日付で行われたと思っておりますけれども、その国勢調査の結果、正確な結果は出てきているのでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 今年行われました国勢調査につきましては、結果はまだ発表はされておられません。令和8年5月末までに速報結果が発表される予定でございまして、また同じく令和8年9月末までに確定結果が公表される予定でございまして、以上でございます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） それでは、私が持っているこの速報値で話をさせていただきますけれども、一昨年、我々いろんな会議に出て、いろんな資料をいただく中で、人口動態の変化について月別のやつが出てきたときに、令和5年度でしたか、単発で、単月で、例えば3月とか7月とかいう中で社会増になっているのを見受けました。それから、それ以降市民課のほうにお願いして、3か月単位ですずっと人口動態を追ってまいりました。一番気になっていたのは、現状と政策がずれてくるのが一番まずいなと思ひまして、今の本当の

朝倉市がどういう状態にあるのかというのをずっと見続けようというところで追ってきたところです。人口動態を語る時に、単純に増えた減ったということだけでは判断はできないというふうに思っております。先ほど申し上げましたとおり、人口分布の関係から日本の国自体が人口が減少しているフェーズにあると。その中で、大阪市とか福岡市のように人が集まってきているところがある反面、逆に減っているところもあるという状況。だからその社会増減をどうするか、自然増減をどうかしようと思うと、1年とか2年でどうできるものではありませんので、長期的に見てどういうふうに持っていくかというところを国ぐるみでやっていかなければいけないことだろうというふうに思います。そんな中で社会増減を少しでも増やそうという試みというか、考え方のもとに政策が展開されるべきだろうというふうに考えます。

私の持っております速報値によりますと、例年ですと1年間で大体大ざっぱに五、六百人が自然増減によって減って、そして一昨年まではそれに加えて社会増減で100人、150人の方が減っていたんです。ところが去年が今年度は自然増減につきましては四、五百人の減だったのが、社会増減はプラマイゼロという状況まで来て、今年に至っては10月現在の時点で自然減は約300人、そして社会増減でいうと150人の増になっているんです。単純に一般的に考えられますのが、外国人が入ったから増えたんじゃないかというふうに考えられると思うんですが、それも気にして見ておりました。150人のうちの約100人が外国人、50人が日本人、単純に日本人だけでも流入が増えてきているということになります。

10月19日に、先日行われた高校生への提言発表会がありました。その中で、朝倉東高校のチームが朝倉市の人口減少のグラフと合わせて、右下に小さく昼夜間人口比率というのでも示されておりました。よく調べているなと感心したところではありますが、その発表では朝倉市の昼夜間比率は106.9%となっていました。今さらではありますが、昼夜間比率とはどういうものなのか、御説明をお願いいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 昼夜間人口についてということでございます。昼夜間人口比率といいますのは、ある地域に住んでいる人の数、これは夜間人口ということになりますけれども、夜間人口を100としたときに、昼間にその地域にいる人がどれくらいになるかを示すという指標でございます。昼間の人口には、通勤や通学で流入する人、逆に流出する人が含まれて、この比率が100%を超える場合は、昼間にその地域に来る人が多いということになります。仕事や学校などの拠点になっていることを意味しているというところがございます。逆に100%未満という場合は、昼間に外へ出ていく人のほうが多く、ベッドタウン的な性格が強い地域といえます。なお、朝倉東高校の生徒さんが発表しました106.9%というのは、平成27年の国勢調査の数値でございます。直近の令和2年になります。国勢調査の数値は108.1%というふうになっているところがございます。いずれも100%を超えておまして、朝倉市は昼間に周辺地域から通勤、通学する人が多

い地域であるというところがございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 現在は108.1%ということがございますが、この内容的に個別にいきますと、朝倉市と周辺都市、例えば福岡市だったり、久留米市だったり、お隣の筑前町だったり、その人口の動きがどうかといいますと、さすがに福岡市に対しては朝倉から働きに行かれて、福岡のほうで働かれているという方が多いんですけども、その他の都市、久留米市を含むその他の都市からは朝倉市への流入といいましょうか、そっちのほうが多いんです。昼間の人口ということになりますけれども、こちらに来られて仕事をされたり、勉学に励まれたりという数が、周辺の都市、福岡市以外の全都市よりも流入超過状態にあるということ、もう一回頭の中に入れておいたほうが我々はいいいのではないかなと思います。

そんな中、朝倉市は令和5年から社会増に転じてきておりますが、これまで市の政策的を得ていたものであると考えられます。昼夜間人口比率が高い朝倉市では、昼間の人口の一部が朝倉に住んでくれるような政策を打つこと、さらなる社会増を狙えると思うが、どう考えますでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 朝倉市はこれまで福岡都市圏への交通の利便性がよいと、アクセスがよいということで、通勤通学にも便利でありながら、自然豊かな大都市圏にはないライフスタイルで暮らせる強みを持っているため、そのことを強みとして福岡都市圏住民等を中心に全国にアプローチを行ってきたところがございます。今回は、昼夜間人口比率といった視点から、議員から提案をいただいたところがございます。昼夜間人口比率が高いということは、市外から朝倉市に通勤通学で来ている人が一定数いるということがございます。本市への通勤通学者は、既に本市との接点がございますし、関係性は一定できているため、通勤通学で来ている人をターゲットに、近隣市町村ということも含めまして、移住施策を打つのは効果的な方向性の一つであると考えているところがございます。これまでの取組と合わせまして、より効果的な移住支援策を考えていきたいと思っているところがございます。以上です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 先日の高校生の提言発表会では、市長が挨拶の中で社会増であると述べられていました、はっきりと。この社会増であるという言葉は、あんまりいろんな会議の中では聞きません。これを社会増であるということをアピールするということは、大変大事なことではないのかなというふうに感じております。人口が減っています、減っています、人口減少していますというのではなく、朝倉市が社会増であることをアピールして、多くの方に知ってもらい、本当の現状がこういう状況であるということを知ってもらい必要があるというふうに感じますが、最後に副市長、よかったですらお願いいたします。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 平成18年の朝倉市誕生以来、人口動態につきましては、自然増減、社会増減ともに減少が続いてまいりました。議員言われますように、2年前の令和5年から、社会増減につきましては、転入が転出を上回る社会増に転じてきております。市長も会合など事あるごとにこのことを話されております。昨日の一般質問でもありましたように、地方創生事業に頑張ってきた朝倉市としてはとてもうれしいことです。職員の頑張りも報われるのではないかと考えておりますし、大災害を受けた朝倉市にとって、災害復旧、復興に対し支援をしていただいた方に対しても元気であると、頑張っていると報告できると思っているところでございます。

議員に言われますように、この社会増をうまくアピールしまして、朝倉市の地方創生、人口減少対策に追い風となるよう生かしていきたいと考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） それでは2番目の項目に移らせていただきます。

全項目関連しているといえれば関連しているのですけれども、新規事業と廃止事業について、今年3月の予算審査特別委員会の総括質疑において、令和5年から令和7年度までの新規事業と廃止事業の推移について質疑を行いました。その回答で、新規事業は毎年30以上あったのに対して、廃止事業は一桁もしくはなしであったように思います。新規事業に対して廃止事業はほとんどない状況でありますけれども、総括質疑以降、副市長は何らかの指示を行われたかどうかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） これは、私が職員であったときから、予算編成方針には不要不急の事務事業の廃止と縮小ということに記載しておりまして、以前よりその必要性については職員に伝えてきておりました。財政担当のときには、廃止事業や事業の見直しをして、財源を捻出の上でないと新規事業は要求してはいけないなどの取組も試みてきたところでございますけれども、なかなかこの事業の改廃は進んできておりませんでした。今年度は、春先から企画、財政、人事の3課でチームを組ませ、検討を進めてまいりました。試験的にではありますけれども、全庁各課全てに事業の廃止を検討するように指示をしたところでございます。

結果、事業の一部見直しや削減が多かったものの、30課から大小含め51件の提案が出てまいりました。検討が必要なもの21件を除く30件については、廃止や削減に向けて取組を進めているところでございます。削減額としてはまだまだ小さいかもしれませんが、続けてまいりたいというふうに考えております。また、小さな取組としては、人事課長と話して、これ他市で行っている事例なんですけれども、職員が行った事業改善事例案を作成しまして、他の職員に周知することをやってございます。些細な内容の改善でもいいので報告をしてもらって、それを見た職員が同じ改善をするもよし、ヒントをもらうもよし、

このくらいの改善でもいいんだということを思うことによって、常日頃から改善意欲を持って業務に当たってほしいという思いで始めておりまして、今年度はこの2つの取組を始めておるところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 行政はなかなか事業の廃止というのはできにくい状況にあるため、取捨選択とは言わずに選択と集中という言い方になるんだろうなというふうには思います。増え続ける業務に対応するためには3つの方法が考えられるわけですがけれども、それは1つが廃止する、それから配分する、もしくは委託ですね。配分、委託をする、それと人的資源の増量、すなわち職員の増員だったり職員のスキルアップだったり等がいろいろ考えられることになるとは思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 市民の行政ニーズの増加に対応していくためには、1番は事業の廃止削減を進めることであると同時に、職員の事業に対する意識や改善意欲を向上させるべきだと考えてございます。そのような中で業務の外部委託やDXの取組などにつながっていくのではないかと考えているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） もうぜひ、今年の3月に投げかけたことですし、ぜひ頑張っているだけというふうには思いません。

それでは次の質問に移ります。職員人事についてお尋ねいたします。

近年の職員採用の推移と倍率についてお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まず、直近10年の職員採用の推移、平成27年度から令和6年度までの10年間では合計212名でございます。すいません。倍率のほうは手元に資料を持ち合わせておりません。申し訳ありません。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） ありがとうございます。かなり多い倍率の中から選ばれた人たちが職員になられているというふうに確信しております。その逆に、入庁10年以内で退職された職員の数は何人ぐらいいらっしゃいますでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） ここ10年、平成27年度から令和6年度までの10年間で新規採用から10年以内で退職した職員は31名でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） お尋ねいたしますけれども、この職員たちが200名近く、212名が入られて31名が退職されていると。この職員に対する人事評価というのはなされているのでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 人事評価につきましては、平成26年度の地方公務員法改正を受けまして、試行期間を経まして、朝倉市では平成28年度から本格運用したところでございます。28年度以後の職員につきましては、人事評価をしておるところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） それではその人事評価の結果といたしますか、内容が人事評価のほうに反映されているのでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 朝倉市の人事評価制度につきましては、人材育成を重視させていただいているところでございます。具体的には職員ごとに目標を設定し、自己評価と評価者である上司との年3回の面談を通じて目標の達成状況や課題を確認しながら評価を行っております。一概に人事異動に人事評価が直接的に関与しているかということは、直接ではございませんけれども、人事異動を行う以前に、管理職等に意見を求める際に、その人事評価で行っております人事面談等での職員の意見、そういうふうなものは参考にさせていただいているというようところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 県内、朝倉市以外の県内の都市につきましては、どのような状況にあるのか教えてください。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 他自治体の状況でございますけれども、他自治体では、その人事評価の結果を踏まえて、昇任、昇給に反映しているという団体もございます。そちらにつきましては、例えば、人事評価の処遇反映、勤勉手当であれば、県内27市のうち24市、朝倉市のほうはまだ今のところ反映ができていないというような状況等がございます。以上です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 分かりました。その結果が、その三十数名、恐らくかなりの倍率を突破して職員になられた方々が、正当な評価を受けられずに退職をされたというふうに考えられる人が出るということは問題であるというふうに思います。必ずしもそうではない、自分のスキルアップのために退職された方もいらっしゃると思いますので、一概には言えませんが、とにかく頑張った職員が報われないという状態が起きるのが大変な問題だと思いますが、今後、せつかく人事評価というシステムがあるわけですから、その評価をその後に反映される方向に在り方を改善されるべきではないかなというふうに思います。いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 人事評価をそういうふうなやる気を持たせるような方向に向けていくというふうなことにつきましては、その考え方は持っておるところではございます。制度導入から一定の期間が経過をいたしまして、定着は見られるところではございますが、人事評価の目的であります人材育成、また組織の業績向上を達成するためには改善が当然必要です。現在、職員団体と協議を進めておりまして、制度の公平性や透明性を確保しつつ、職員が納得できる形での仕組みづくりを進めているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 単純にそうなることが本当にいいことだろうと私は思いますけれども、単純に評価がよかったからよかったということではなく、評価する側の資質といましようか、それもアップしていかなければいけない、ちゃんと評価できる体制もとっていかなければいけないということも十分注意されて進められるべきだと思っておりますので、よろしくどうぞお願いいたします。

それでは、次に、燃料費高騰対策についてお尋ねいたします。

ここ数年、燃料費高騰対策として、朝倉市もいろんな事業者に対して支援を行ってこられました。どのような支援を行ってきたか、県の方も含めてお答え願います。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 市におきましては、中小事業者等が事業所で使用した電気・ガス代の光熱費及びガソリン・軽油・重油・灯油代の燃料費に対して、令和4年度から4度のエネルギー価格高騰対策事業者支援事業に取り組みました。

第1弾は、中小事業者等が支払った令和4年1月から10月までのうち、任意の連続する3か月分の光熱費及び燃料費の合計額から、前年同時期分の光熱費及び燃料費の合計額を差し引いた額に2分の1を乗じて得た額に対しまして、上限30万円を支援いたしました。申請件数は85件、1,482万8,000円を交付しております。

第2弾は、令和4年11月から令和5年3月までに中小事業者等が市内事業所で使用したエネルギー——これは電気、ガス、ガソリン等になりますが——の使用料に支援対象経費の種別ごとに設定しました上昇単価を乗じて得た額の合計額の2分の1に対しまして、上限30万円を支援いたしました。申請件数は132件、1,587万6,000円を交付しております。

第3弾は、令和5年4月から12月までに中小事業者等が市内事業所で使用したエネルギーの使用料に支援対象経費の種別ごとに設定した上昇単価を乗じて得た額の合計額の2分の1に対しまして、上限80万円を支援いたしました。申請件数は256件、5,984万9,000円を交付しております。

第4弾は、令和6年5月から7月までに中小事業者等が市内事業所で使用したエネルギーの使用料に支援対象経費の種別ごとに設定した上昇単価を乗じて得た額の合計額の2分の1に対しまして、上限40万円を支援いたしました。申請件数は201件、2,553万

9,000円を交付しております。

第1弾から第4弾までの支援の合計は、申請数合計674件、交付額合計は1億1,609万2,000円となっております。また、福岡県におきましては、LPガス料金高騰対策支援事業としまして、令和5年から7年にかけて、合計4回、LPガス一般消費者全てに対しましてガス料金を定額値引きする形で支援を行っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 今おっしゃられたガスについてのことですけれども、今現在国全体が電気のほうにシフトしている状況ではあると思います。現状、一般家庭において、電気ではなくてガスを使って調理されている方と、電気を使って調理されている方の比率、オール電化の比率になりますが、どれぐらいだと思われませんか。

○議長（小島清人君） 総合政策課長。

○総合政策課長（中村守康君） 朝倉市でのオール電化、またガス併用住宅の比率等についての数字は持ってございませんけれども、オール電化の新築住宅につきまして、近年の数字で約47%ということが出ております。ただこれは現時点での新築住宅の割合ということでございますので、あくまでも推計ではありますけれども、朝倉市では20%程度がオール電化になるのではないかなということ考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） ありがとうございます。実は筑紫5市で市単位でガス、プロパンガスの事業者支援を行われていたと聞いておりました、そんな中、副市長とお話をさせていただいて、朝倉市もできるんじゃないかということで少し動いていただきました。けれども、いろんな制度的な問題が出てハードルがクリアできなかったというふうに聞いております。今後、恐らくまだ燃料高騰対策とかも打っていかれると思いますけれども、そのときになって動こうとするのではなく、調理の部分においてはガス利用者のほうが断然多いという状況の中、筑紫5市ができたということは朝倉市でもできるんじゃないかなというふうに思いますので、どうにかしてできる方向を探していただくよう検討いただきたいというふうにお願いいたします。これは答弁は結構です。次に行きます。

ずっと1番から今後の市政運営についての前段という考え方で流れてきておりました、5番の今後の市政運営についてという項目につきまして、実は、平成29年、我々未だ記憶に残る未曾有の大災害に見舞われました。当時しっかり復旧に頑張っておられました前市長が、病に倒れられまして、その後、現林市長が平成30年に、当時県議であった林市長が復旧の陣頭指揮を取るべく市長に就任いただきました。そして復旧に全力を傾注されたけども、当時計画されておりましたほとんどの計画、全計画とっていい計画はストップ、保留という状況で復旧に全力を尽くされました。そして令和4年、現市長、林市長の2期目になるわけですけれども、ある一定の復旧を成し遂げられ、ストップしていた計画をこの頃より再開され始めたというふうに思っております。当時、復旧の際には朝倉を取

り戻すというスローガンの下、復旧に全力を尽くされましたが、その後、令和6年にある程度の復旧を達成し、発展期への移行という形になってきたというふうに思っております。あと20日、約3週間ほどしますと、令和8年を迎えます。年初より新庁舎にてスタートする、前回から最も大きな事業であった庁舎の移転ということになってまいります。市民にとりましては、市政が継続していく、その継続性というのは重要な関心事であると考えます。また、今後の市政運営の方向性を市民に示すことは、行政の信頼につながると考えます。その観点から、市長御自身の今後の市政への関わり方、そして次期市長選に向けて、今後どのように市政に関わっていくお考えか、現時点での御意向をお伺いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 私はこれまで市長として、約7年8か月でありますけれども、平成29年九州北部豪雨災害から、ふるさと朝倉を取り戻すために、先頭に立って全力で奔走してまいりました。この間、何度も何度も災害が発生し、本当にやるせない思い、経験をしながらも、着実に復旧復興を進めてこれたと思っております。これは国や県、他自治体の職員の方々の応援、また市民、議員の皆様方の理解、協力、市職員の努力などの様々な支援のおかげであると思っております。このことにつきましては、本当に感謝をしている次第であります。災害復旧の進捗に伴って、地方創生事業も少しずつではありますが、始めた矢先、もう少しのところまで来ていた中での災害復旧でありましたが、令和5年度の大災害、本当にショックが大きかったです。

しかし、感傷的になるわけにもまいりませんので、とにかく職員と一丸となって災害対応に当たってまいりました。その甲斐あってと思っておりますが、災害復旧事業は本当にもう少しのところまで来ています。1,069世帯あった被災者見守り支援世帯につきましても、今月でゼロとなる予定であります。災害以外については、災害により出遅れ感のある地方創生事業でありますけれども、災害復旧や財政状況を見据えながら進めてきております。市の人口は、今日御質問いただきましたけれども、全体としては減少傾向にありますが、社会増減については、ここ2年間は増加に転じてきている状況になっております。そして、朝倉市のみならず全国的にはありますが、現在の物価高騰の状況や、労働者不足、国の政権運営の不安定さなどの課題があることも重々承知をしているところでございます。

このようなときに、朝倉市の重要な時期であります。自分は、私はどうすべきか。老兵——年をとっておりますので——老兵は刀を置き去りゆくべきなのか、もしくは刀をさらに磨き振り続けるべきなのか、市のために自分ができることなどをいろいろと考えました。熟慮の結果であります。自分が刀を振り続けていくことが朝倉市のためになると考え、次期市長選挙に立候補させていただき、市の将来を切り開いていきたいと覚悟を決めたところであります。決して容易なことではないと思っておりますが、私が先頭に立って、市の未来に道を切り開いていくことをお約束をさせていただきます。

併せて、私のこれまでの県議経験、人脈、人間関係などを総動員いたしまして、将来に

わたり、安心安全なふるさと朝倉にしていきたいと思います。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） ありがとうございます。ただいま、林市長より今後の意思について力強く語っていただきました。来年4月の選挙において再選され、3期目の市政運営を負託された場合は、市民と行政が一体となったまちづくりとともに、従前からの継続事業だけでなく、林市長独自の政策、行政運営を遂行され、朝倉市の一層の発展を目指していかれることを期待し、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 10番半田雄三議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時から再開いたします。

午前11時58分休憩